

海・川の仕事人

聞き書きワーク①

インタビューをしてみよう

年 組 名前

特集ページには、愛媛県愛南町（あいなんちょう）の一本釣り（いっぽんづり）漁師（りょうし）・吉田真一（よしだ・しんいち）さんのインタビュー記事があります。その記事を読んでみましょう。仕事のほか、生き立ちや仕事に対する考え方など、さまざまなことが書いてあります。あなたが、もしもインタビュアー（記者）だとしたら、どんな質問をしますか。自由に書いてみましょう。

（子どものころについての質問）

- 1、
- 2、
- 3、

（仕事についての質問）

- 1、
- 2、
- 3、

（住んでいる地域や家族についての質問）

- 1、
- 2、

このワークで学んだことを実際のインタビューのときにも役立てましょう。

- インタビューは、仕事の内容を中心に、家族や生き立ち、住んでいる地域のことなど、さまざまな角度から質問を考えるようにしましょう。
- 質問を考えるためには、本や資料を見て、下調べをすることも大切です。
- 仕事に対する思いや考え方などを聞くことも大切です。

ていねいに、具体的に質問しよう

年 組 名前

仕事について質問をするときには、ばく然と「楽しいことは何ですか」「むずかしいことは何ですか」と質問するのではなく、その人の仕事の内容を、ていねいに、具体的に聞くようにしましょう。

「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どのように」「なぜ」という6つの疑問（ぎもん）を手がかりにして、質問を考えてみましょう

（例）漁師さんに、タコをとる漁法について質問する場合

1. タコ漁は、いつからやりますか。（漁期や時間など）
2. タコ漁は、どんな場所でやりますか。（海の場所や深さなど）
3. タコ漁は、一人でやりますか。夫婦二人でやりますか。
4. タコ漁には、どんな道具を使いますか。（タコつぼなどの漁具について）
5. タコつぼは、どうやって海にしずめますか。（タコつぼの使い方について）
6. タコつぼをしずめると、なぜ、その中にタコが入るのですか。（タコの生態について）

（問題）「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どのように」「なぜ」という6つの疑問を手がかりに、キハダ（マグロの仲間）を釣る（つる）、吉田真一（よしだ・しんいち）さんへの質問を考えてみましょう。

- 1、
- 2、
- 3、
- 4、
- 5、
- 6、

このワークで学んだことを実際のインタビューのときにも役立てましょう。

- 「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どのように」「なぜ」という6つの疑問（ぎもん）を手がかりにして、仕事について、ていねいに、具体的に質問するように心がけましょう。
- 質問は、内容（テーマ）ごとに分類して、メモをつくります。
- グループでインタビューするときには、そのメモをもとに担当（たんとう）を決めましょう。

こそあど言葉や修飾語に注意しよう

年 組 名前

人は話をするとき、細かな説明を省略することがよくあります。また、話の中では、「ここ」「あそこ」などの指示語（こそあど言葉）や「大きい」「小さい」「いろいろな」などの修飾語（しゅうしょくご）をよく使います。こそあど言葉は、具体的に何をさしているのか。「大きい」とは、具体的にどのぐらいの大きさなのか。ひとつひとつ確かめることが大切です。

（例文）

私（わたし）は、この川ぞいの作業場で船大工をしています。これまで、たくさんの木造船をつくってきました。川漁師さんの中には、さまざまな理由で、プラスチックの船よりも木造船を好む人がいます。でも最近、船をつくる注文はほとんどありません。県内でも木造船をつくる船大工はわずかになりました。

（問題）

例文1を読んで、「ここ」「あそこ」などの指示語（こそあど言葉）や、「大きい」「小さい」「いろいろな」などの修飾語（しゅうしょくご）に線を引いてみましょう。話の内容を、くわしく正確に知るためには、どんな質問をすればいいか。質問を書いてみましょう。

- 1、
- 2、
- 3、
- 4、
- 5、

このワークで学んだことを、実際のインタビューのときにも役立てましょう。

- ・人は、話をするとき、細かなことやくわしい説明を省略することがよくあります。
- ・指示語（こそあど言葉）は、具体的に何をさすのか、確かめましょう。
- ・「大きい」「小さい」などの修飾語（しゅうしょくご）は、具体的にどれぐらいの大きさなのか。「いろいろな」などの表現は、具体的にどんなこと（ものや状態）なのか。くわしく聞いてみましょう。
- ・指示語（こそあど言葉）や修飾語（しゅうしょくご）を、具体的な数や内容などに置きかえると、話の内容がよりくわしく、正確に伝わります。

海・川の仕事人

聞き書きワーク④

わかったつもりにならないで

年 組 名前

毎日、いろんなことを勉強している私（わたし）たちは、ついつい、何でも知っているつもりになりがちです。たとえ身近なことでも、知らないことはいっぱいあります。わかったつもりにならないで、知らないことは素直に質問しましょう。

（問題1）

みなさんは、シラスを食べたことがありますか。シラスは茹（ゆ）でたり、干（ほ）して「チリメンジャコ」にして食べます。シラスは、どんな種類の魚ですか。説明してください。

※わからない人は、特集ページのシラス漁師・岩崎晃次（いわさき・こうじ）さんのインタビュー記事を読んで答えましょう。

（問題2）

シラス漁師の岩崎（いわさき）さんはインタビュー記事の中で、「シラスは海のお米」だと言っています。それは、どういう意味でしょうか。岩崎晃次さんのインタビュー記事を読んで、以下の文章の「 」に言葉を入れましょう。

私（わたし）がとるシラスは、主に「 」の稚魚（ちぎょ）です。「 」には、年に数回、産卵期（さんらんき）があります。私がとるシラスは、ふ化した後、20～50日で、大きさは2～5センチぐらいです。ふ化した稚魚（ちぎょ）は、沿岸（えんがん）にやってきます。沿岸（えんがん）には、山の栄養をふくんだ川の水がそそぎこみ、「 」が発生します。それを食べて「 」が増えます。プランクトンを食べるシラスを、私たち漁師がとります。でも、シラスを食べるのは、「 」だけではありません。いろいろな種類の「 」がシラスを食べるのです。だから、シラスは、海のお米だと思います。最近（さいきん）は、地球温暖化（ちきゅうおんだんか）が影響（えいきょう）しているのか、シラスがとれる量（りょう）や時期（じき）が変わってきています。海のお米がなくならないように、漁師（りし）はもちろん、地球（ちきゅう）全体（ぜんたい）で自然環境（しぜんかんげい）のことを考えなければならないと思います。

このワークで学んだことを、実際のインタビューのときにも役立てましょう。

- ・知らないことは、決して恥ずかしいことではありません。わからないことや疑問（ぎもん）に思うこと、もっと知りたいと思うことがあったら、恥ずかしくせずに質問（しつもん）しましょう。
- ・丁寧に質問（しつもん）することで、その言葉（ことば）の本当（ほんとう）の意味（いみ）や、ものごとの背景（はいけい）、理由（りゆう）などがわかります。知らない言葉（ことば）や専門用語（せんもんようご）などが出てきたら、詳しく聞いてみましょう。

言葉のキャッチボールをしよう

年 組 名前

インタビューは、ひとつの質問をして答えてもらったら、それで終わりではありません。次は、答えてくれた内容に対して、さらにくわしく聞くための質問をします。ひとつのことをくわしく知るためには、いろいろな角度から質問することが大切です。

(問題1)

漁師の岩崎晃次（いわさき・こうじ）さんに、シラスをとる漁法について質問をします。

質問 シラスは、どうやってとるんですか。

答え 船を走らせながら、まず、シラスの群れをさがします。群れがみつかったら網（あみ）を入れてとります。

さらにくわしく聞くためには、次にどんな質問をしますか。

(問題2)

漁師の岩崎晃次（いわさき・こうじ）さんに、シラスがよくとれる時期について質問します。

質問 シラスがよくとれるのはいつですか。

答え シラス漁には、春、夏、秋と年に3回、ピークがあります。

さらにくわしく聞くためには、次にどんな質問をしますか。

このワークで学んだことを、実際のインタビューのときにも役立てましょう。

- ひとつのことをくわしく知るためには、その人が答えてくれた内容に対して、さらにくわしく聞くための質問をしなければなりません。さまざまな角度から具体的に聞いていきましょう。
- 話を聞いている途中（とちゅう）で質問を思いついたら、メモをしましょう。そのメモをもとに、話の区切りのいいところで、改めて質問をします。
- 答えてくれたことに対して、どんどん質問を重ねることができるようになれば、あなたは立派（りっぱ）なインタビュアー（記者）です。